



公立大学法人富山県立大学

News Release

富山県立大学

○本事業に関するお問い合わせ：
地域協働支援室
COCコーディネーター 堺 勇人
電話：0766-56-7500（内線）632
事務局教務課情報研究係 垣内（内線）229

平成29年12月14日



学生による黒部市宇奈月町の里山での活動について

文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（※1）」について、本学から申請した事業（『工学心』で地域とつながる『地域協働型大学』の構築（※2））が採択され、地域との対話・協働・交流による教育・研究・社会貢献の取組みを進めているところです。

その一環として、黒部市宇奈月町の里山「^{あいもと}愛本 夢の里」にて、下記の通り観察路の標識設置作業を行なうこととなりましたのでご連絡します。

- 日時 平成29年12月16日（土） 10:00～12:00
- 場所 黒部市宇奈月町「愛本 夢の里」（地鉄「愛本駅」付近の森）
- 参加学生 富山県立大学 工学部1年 教養ゼミⅡ受講生 14名
- 指導教員 教養教育（植物学） 鈴木 浩司 准教授
- 協働相手 愛本夢の里プロジェクト（実行委員会代表：水野 透氏）
- 内容
本ゼミは、本年度4月より身近な自然の生物多様性及びその保全や今後の活用について、黒部市宇奈月町愛本の森を活動フィールドとし学んでいます。活動に際しては、地元の里山保全団体「愛本夢の里プロジェクト」と協働で取り組んでいます。これまで、森林調査2回、及びかつての里山活用について地域の方々からのヒアリングを行いました。今回、活動の総括として観察路内の案内標識を学生が制作し、その設置作業を行ないます。
- 当日のスケジュール
10:00～12:00 林内にて標識設置作業
- これまでの活動実績
7月15日：第1回森林調査（植物調査）
11月18日：第2回森林調査（観察路整備の下見）
11月26日：「うなづき伝統の食を楽しむ集い」に参加：里山の恵み活かした伝統料理を実際に食し、参加者（地域の古老）よりかつての暮らしと里山との関わりについてヒアリングした。

※1 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」について

「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）」は、大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的として、平成 25 年度新たに創設されたものです。

25 年度は、全国の各大学等から 319 件の申請があり、52 件が採択されました。

※2 『「工学心」で地域とつながる「地域協働型大学」の構築』について

「富山県の発展を目指した県民の大学」という建学理念のもと、地域の課題に対して全学を挙げて取り組み、地域に役立つ技術者マインド「工学心」を持ち、地域課題を解決できる学生の育成を図るなど、「地域協働型大学」の構築を目指すものです。具体的には、例えば、少人数で行うゼミ形式の授業の中で、学生が多様な地域関係者と直接対話や交流などを行い、地域産業の振興や超高齢化社会への対応など解決が困難な課題について、地域関係者と一緒に考えます。

学生自らがその課題をとらえ、また、その課題の解決のためどう取り組めばよいかを学修することを通じて、主体的に課題解決する能力を持った人材の育成を目指しています。



富山県立大学

平成25年度「地(知)の拠点整備事業」

「工学心」で地域とつながる「地域協働型大学」の構築

地域に役立つ技術者マインド 「工学心」で地域とつながる全学的取り組み



「工学心」

人々の暮らしに役立つ「工学」、新しい高度な技術の創造への熱意

「地域とつながる」

- ・学生が積極的に地域と交流・対話・協働することにより、地域課題を肌で感じ、主体的に課題解決する能力の育成
- ・教員による地域志向の教育及び世界を目指す研究による地域との協働

「工学心」

大学
(学生・教職員)



地域
(自治体・地域団体
住民・企業)

「地域協働型大学」

- ・教育・研究・社会貢献の分野で全学的に地域課題に取り組む
- ・「工学心」を持ち、地域課題の解決に取り組む学生を育成